



研究者名※	平田 京子 HIRATA Kyoko	学位※	博士(学術)
所属※	建築デザイン学部 建築デザイン学科	職名※	教授
連絡先	hirata@fc.jwu.ac.jp		
URL	https://mcm-www.jwu.ac.jp/~hirata/index.html		
researchmap※	https://researchmap.jp/read0182932		
研究分野※	建築学、住居学、防災、建築社会学、リスク・コミュニケーション、住居の安全性		
研究キーワード※	避難所、市民防災、復興、リスク・コミュニケーション、防災教育、家庭科・市民教育、空き家、社会連携教育		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所機能高度化と住民の自主運営をめざす「避難所大学」啓発プログラムの開発と実践(科学研究費・基盤C・研究代表者、2021~2023年) ・首都直下地震時避難所の高機能化・居住環境向上と住民の自主運営実現のための実践研究(科学研究費・基盤C・研究代表者、2018~2020年度) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<p>文京避難所大学 主催(2019年度~文京区との協働:文京区防災士等育成講座として) 茨城県大野原地区の住民参画型避難所自主運営の実践「神栖避難所大学」(住総研2020年度実践助成) 東京都震災復興検討会議委員(2020年10月~) 建築・住宅国際機構 ISO/TC98 国内分科会、ISO/TC98/SC2/WG12 委員(2017年~) 文京区 空家等対策審議会 座長(2017年7月~) 東京消防庁 火災予防審議会、地震対策部会・小部会 委員 (2013年4月~) 日本建築学会 倫理委員会委員長、建築教育委員会委員長、住まいづくり支援建築会議情報事業部会主査 等</p>		
受賞歴	日本建築学会奨励賞(2003年)		

研究領域	建築学、防災、住生活学	
------	-------------	--

研究テーマ※ 避難所(妊産婦・乳児救護所)の機能高度化、住民の自主運営の実現に向けた「避難所大学」プログラムの開発

概要※
(概ね1000字以内)
(写真・グラフ等自由)

【研究の目的・内容・特色】
 避難所は災害後の復旧・復興の第一歩となる被災者の砦である。避難所を円滑に運営し、迅速な復興につなげるためには、地域住民が主体的に運営することが重要で、これが災害後の社会的回復力を高める鍵になる。
 しかし首都圏では過密な避難所が想定され、地域コミュニティの弱体化した地域住民の手で、混乱から始まる避難所を何の準備もなく円滑に運営するのは困難である。また新型コロナウイルス等の感染症対策により収容力は低下し、避難所が満杯になる恐れがある。こうした大規模避難所の運営には、大地震発生前から住民主体の十分な準備が必要であり、地域のキーパーソンのスキル向上と地域コミュニティ内での対話、外部支援者(防災NPO等)との事前交流などを行うことが望まれる。そこで住民の意識啓発手法を開発、「避難所大学」と名付ける防災リーダー・実践者を育てる市民教育システムを実践している。
 また本学が文京区の妊産婦・乳児救護所として指定されていることから、避難所の開設方法、運営システムの構築を研究し、自治体・教職員・学生と協働しつつ実践している。
 このほか防災分野では、学校での防災教育なども実績があり、小学生の防災勇者 育成プログラム(東京消防庁との協働)を開発した。

救護所受付準備 (OP.10)
 【目標】 役割は想定内、落ちつきましょう！
 ①机といすの準備
 ②受付資材の準備
 ③各部屋の案内表示

日本女子大学妊産婦・乳児救護所開設キット (一部)

本研究関連特許・論文等

- ・平田京子, 石川孝重, 斉藤大樹:大地震時における高層集合住宅居住者の自宅滞在型避難生活に関する研究ー東京23区を対象とした調査に基づく発災後の対応可能性ー, 日本建築学会計画系論文集, 第78巻, 第692号, pp.2153~2161, 2013年10月.
- ・古川洋子, 平田京子, 石川孝重:文京区の32避難所地域を単位とした避難所生活者発生状況と避難所運営協議会による避難者受け入れ準備体制の把握ー首都直下地震に対する文京区での住民の地域防災力向上に関する研究ー, 日本建築学会計画系論文集, 第80巻, 第713号, pp.1587~1596, 2015年7月.

共同研究・外部機関
との連携への期待

・防災や復興に関する産学官連携型の研究
・住民や地域コミュニティ、学校などとの連携